

## 島津貴久

たかひさ

## 没後四百五十年



島津家十五代太守として知られる島津貴久（一五一四〜一五七二）は、伊作島津家の島津忠良の嫡男として、田布施の亀ヶ城（南さつま市金峰町）で生まれたと伝えられています。

のちに島津本家を継ぐこととなり、父親の忠良や、息子の義久・義弘・歳久・家久らとともに、三州（薩摩・大隅・日向）の統一に向けて尽力し、戦国大



### 亀ヶ城跡

貴久の誕生地とされる田布施の亀ヶ城跡には、亀ヶ城神社が鎮座し、貴久の生誕地記念碑が建てられています。



### 加世田踊（土踊）の図

伊東陵舎『鹿兒島風流』（写本/国立公文書館蔵）より『鹿兒島風流』著者の伊東陵舎（江戸の講談師）は、江戸時代後期の天保7年（1836）に島津齊宣に従って南薩の各地を巡りました。

名島津氏の隆盛をもたらしました。現在、南さつま市加世田武田の竹田神社の六月燈の際に踊られている土踊（県指定文化財）は、貴久が元龜二年（一五七二）六月二十三日に加世田の御屋形で亡くなったことに因み、のちに貴久の命日にあわせて弔いのため踊られるようになったものと伝えられています（現在は新暦の七月二十三日に踊られています）。昨年（令和2年）の土踊は、新型コロナウイルス



### 島津貴久の灰塚（愛宕下）

ス感染症の流行により実施できませんでしたが、今年の土踊は、関係者等の尽力のもと無事に催されました。貴久の没後四百五十年という節目の年に土踊が実施できたことは、たいへん大きな意味があることでした。愛宕下の釈迦堂跡近くの墓地には、「大中良等庵主」と刻まれた貴久の「灰塚」（大中公御灰塚）と呼ばれる大きな石塔が残されており、その威厳を伝えていきます。

#### 【引用・主要参考文献等】

- ◆伊地知茂七 1920 『島津貴久公』松原神社三百五十年祭典事務所
- ◆土持鋤夫 1927a 『加世田遊覧案内』浪速堂書店
- ◆土持鋤夫 1927b 『神代より藩政時代に至る 加世田の歴史』京都活版所
- ◆鈴木棠三 解題・校訂 1969 『鹿兒島ぶり』『日本庶民生活史料集成』第九卷（風俗）三一書房
- ◆三原純孝 2012 「翻刻 伊東陵舎『恵の旅笠』」『国語国文薩摩路』第56号 鹿兒島大学法文学部国語国文学研究室
- 《史料》：『島津国史』／『加世田名勝史 一』／『加世田名勝志 下』／『再撰 帳 一の一』／『薩藩日記雑録』（文/生涯学習課 橋口 亘）